

三鷹の天文台」で親しまれる天体研究のメッカ国立天文台、1924年に東京・麻布からここ三鷹・大沢に移転。以後設備・組織の進展に伴って国内各地、そして海外に研究施設を拡大、「歴史」を大切に守り、「研究」を広げてきた。

今回、天文情報センターの中桐さんのご好意で施設を拝見、設備の概要と天文学の進歩の状況を教えていただくことができた。中桐さんはかつて天文台の設備構築に尽力、「すばる」の建設にも携わってこられた。現在は同センターで天文学の普及にご活躍をされている。

天文台の正面では「時鐘」という「日時計」がわれわれを出迎えてくれる。補正曲線を備えた正確な日時計であり、星（太陽）と地球の位置関係によって時刻を決めるという天文学の基本の基本が鎮座している。

○大切に守られる技術遺産
キャンパス内には

作詞 石川道雄
作曲 坂本良隆
編曲 三木 稔

中央大学校歌

草のみどりに風薫る
丘に目映き白門を
慕い集える若人が
真理の道にはげみつ
栄えある歴史を承け伝
う
ああ中央 われらが中央
よしや嵐は荒ふとも
揺るがぬ意気ぞいや昂
く
春の驕奢の花ならで
みのりの秋やめざすら
む
学びの園こそ豊かなれ
ああ中央 われらが中央
いざ起て友よ時は今
新しき世のあさばらけ
胸に血潮の高鳴りや
湧く歌声も晴れやかに
自由の天地ぞ展げゆく
ああ中央 われらが中央
中央の名よ栄あれ

発行所 中央大学白門物理会
連絡所 〒112-8551
東京都文京区春日 1-13-27
中央大学 理工学部
物理学科学準備室
発行人 杉本 秀彦
編集人 斉藤 守夫
電話 03-3817-1767
FAX 03-3817-1792
e-mail hakumon@phys.chuo-u.ac.jp

ぶつり

ホームページ <http://www.hakumon-butsuri.com/>

科学探訪

遺産が見守る天文学進化の殿堂

国立天文台を訪ねて

天文台のシンボル 第一赤道儀室（1921年完成）
岡山、野

「三鷹の天文台」で親しまれる天体研究のメッカ国立天文台、1924年に東京・麻布からここ三鷹・大沢に移転。以後設備・組織の進展に伴って国内各地、そして海外に研究施設を拡大、「歴史」を大切に守り、「研究」を広げてきた。

今回、天文情報センターの中桐さんのご好意で施設を拝見、設備の概要と天文学の進歩の状況を教えていただくことができた。中桐さんはかつて天文台の設備構築に尽力、「すばる」の建設にも携わってこられた。現在は同センターで天文学の普及にご活躍をされている。

天文台の正面では「時鐘」という「日時計」がわれわれを出迎えてくれる。補正曲線を備えた正確な日時計であり、星（太陽）と地球の位置関係によって時刻を決めるという天文学の基本の基本が鎮座している。

○大切に守られる技術遺産
キャンパス内には

1921年建設の天文台の象徴でもある「第一赤道儀室」をはじめ数多の国登録有形文化財がある。それぞれが綺麗に整備され見学者にもよく理解できる状況になっているが、第一線を退いたものなんと殆どのものが「動態保存」であり、今なお現役である。望遠鏡を構成するレンズや鏡などが一点の曇りなくきれいにみがかれ、それぞれが必要に応じて観測に使われている。この赤道儀室も60年間、太陽黒点のスケッチ観測に活躍した。

とくに塔望遠鏡（アインシュタイン塔）の内部は建物そのものが望遠鏡になっていて、太陽光を垂直に取り入れ、スペクトル分解で観測するものがそのままの状態で保管され、加えて資料館として各種望遠鏡をはじめいろいろな設備、装置などが保管・展示されている。

○より良い環境の土地へ
1878年発足の東京天文台は広い土地、綺麗な空気を求めて麻布からここ三鷹にきたわけだが、今やここは組織のほんの一部。岡山、野

太陽光のスペクトルを分解する「塔望遠鏡（アインシュタイン塔）」

でみることもできるのはすばらしいことである。

旧官舎の活用
三鷹移転時に建設された旧1号官舎は三鷹市の登録有形文化財であるが、ここは「星と森と絵本の家」として活用されている。「天文」から、森、家、絵本と幅広く自然と文化の面で開放され活用されている。

地元の三鷹市も天文台の運営には積極的に支援、2015年、駅近くに「天文・科学情報スペース」を設置、「天文台のあるまち三鷹」としてバックアップしている。

太陽系ウォーキング
構内の一角に「太陽系ウォーキング」があり太陽系の距離を140億分の一に縮めた模型展示がある。人の足1歩が700万キロになり、太陽系の大きさをあらためて実感できるものであった。

定例観望会
50センチの公開望遠鏡による「定例観望会」も人気。今年12月には7日と22日にアンドロメダ星雲を観望できる。（事前申し込み）

○情報発信
国立天文台は暦の計算や科学諸基本データの総元締めである。地下の資料室には当所で編さん、発行される「理科年表」や「天文月報」のバックナンバーが大切に保管されている。1955年まではこの子午儀で恒星の子午線通過を観測、日本中央標準時を決めていて、それを記念するパネルも設けられている。

○ホームページ
常に天文に関する新しいニュースが発信され、今年では9月に50cm望遠鏡で小惑星フェイトンの偏光を観測、また厚いガスに包まれた星の終焉などを観測したことが手にとるようにわかる。また「今週の1枚」として各惑星、彗星などの画像を見ることができ、研究だけではなく一般者への天文知識の普及に幅広い協力をしている。

数々の観測機器と望遠鏡

（清水 正）

<http://www.nao.ac.jp/>

余白

約百一歳になるおじいちゃんが最近旅立ちました。年齢に約をつけました。これは誕生日がはつきりしないからです。そう彼は近所の神社の境内で娘が見つけて連れてきた猫なのです。

猫の年齢は生後一年で人間の十七歳に相当し、二年で二十三歳、三年で二十八歳、以後一年経つと四歳年をとっていくとされてます。亡くなった猫は我が家にきてから二十一年三ヶ月で大往生しました。したがって、人間の年齢に換算すると、少なく見積もっても百一歳であの世へ旅立ったことになりました。

猫は生後一年から成人期、生後七年で高齢期、生後十七年以上で超高齢期と分類されます。この分類に従えば、我が家の猫は四年前から超高齢期に入っていたことになりました。

そのためか四、五年前から体にトラブルが出ていました。帰宅すると必ず玄関に迎えに来ていたのが、それをしなくなりました。察するところ、耳が遠くなつて帰宅を察知できなくなつたようです。音だけでなく物も見づらくなります。眼が白濁し、薄暗いところでは、躊躇うことが多くなります。白内障を発症したのです。

このような加齢に伴う変化はありましたが、この頃は猫らしく自由気ままにのんびりと日々を楽しんでいたようです。

それから暫くして、椅子に飛び乗ろうと試みて、失敗するという事件がおこります。この事件はショックだったようで、以後椅子に飛び乗ろうとしなくなりました。脚力が弱ったことを悟つたのでしょうか。

さらに大きな変化があったのは、亡くなる数ヶ月前です。寝ていることが多くなり、時々大きな声で意味もなく吠えるようになります。トイレもうまくできなくなりました。これらの行動は痴呆症が疑われる症状です。

痴呆症は高度な脳機能を持つ人間特有の病ではないようです。ネットによると、痴呆専用食が犬用に市販されているといひます。猫用はありませんが、これは猫が痴呆症を発症しないことを意味する訳ではありません。猫の寿命が延びて超高齢期を生きる猫が多くなると、それに伴い、痴呆症を発症する猫が見られるようになっていきます。以前は痴呆症の発症が見られる前に命が尽きる猫が多かつたというこのようです。我が家の猫もその例なのではないでしょうか。

猫や犬だけでなく、馬や牛も寿命が延びれば、同じようなことになるのではないでしょうか。だとすると痴呆症は老化に伴い現れる、哺乳動物が患う一般的な症状ということになります。

我が家の猫に、人間を含めた哺乳動物が老化していく様子を教えられたように思ひます。ペットロスを感じながら、そんなことを考える日々です。

会長就任にあたって

白門物理学会設立二十年



杉本秀彦
3代目会長

一九九八年十一月二十八日、同窓会の設立総会が、理工学部校舎で卒業生三三二名の賛同を得て、盛大に催されました。この総会で中央大学理工学部物理学科および大学院理工学研究科物理専攻の同窓会組織、白門物理会の発足が決定しました。

設立総会の翌年一九九九年に会報が創刊されます。創刊号には、設立の状況が紹介されています。これら

の記事によりまずと、本会の設立は、設立総会の二年前の八月から、一、二、三期生が中心になり、発足準備が進められたとのこと。もともと同窓会組織を作ろうという声は物理学科設置後の早い時期から、卒業生の皆さんや物理教室の教員の間から上がっていました。いまに際月が過ぎていきました。ちょうどこの頃、理工学部創立五十周年記念事業の実施が計画されていきました。そこで、これを一つの契機と捉え、記念事業実施の前年に同窓会を発足させるとの目標をたて、設立準備を進めていったとのこと。

あれから二十年が経とうとしています。この間に、白門物理会の会長は一期の志村元良さんから三期の鵜田将さんへとバトンが渡されました。昨年の総会では、鵜田さんが会長を辞任され、その後任として、四期の杉本秀彦が会長を務めることになりました。会員皆様のお力を借りながら、会発展に努めて行く所存でございます。どうぞよろしくお願ひします。



志村元良初代会長



鵜田将2代目会長

AKARUMIRAI — 人工知能は自動運転の夢を見るか —

第5期 盛本 一成

退職を契機に25年住みなれた静岡から東京に引っ越してマンション暮らしを始めた。東京と言ってもちよつと歩けば埼玉県という郊外の街である。都心までは急行電車に乗って30分程で出ることが出来る。仕事から離れてしまったので通勤ラッシュとも無縁な生活。たまの用事で電車に乗ることもあるが昼間の郊外電車は丁度席が埋まる程度の心地よさ。電車の揺れに身を任せてウッラウッラ。フツと目を覚まして前の座席を眺めると10人程度の乗客全員がなにやら自分の手のひらを眺めて指でなぞっている。異様な光景に一瞬ギョツとしたが皆さんスマートフォン

の画面を見て操作しているのだ。「フォン」というからこれは電話機である。でも皆さん黙っているから電話をかけているわけではない。何をしているかと言えばゲーム、メール、ウェブなどを見ているらしい。現時点で日本国民の携帯電話保有率は80%を超えていて、そのうち70%がスマートフォンであるという情報もある。この数字を見れば私のまえの風景も頷ける。

40数年前、大学を卒業した私は今言うコンピュータメーカに就職した。ちょうど日本のコンピュータ産業が世界市場に打って出ようとした時代で通産省（今の経済産業省）を中心に多額の国家予算を注ぎ込んだ国家プロジェクトがスター

トした年だった。理系の卒業生の大半がそのプロジェクトに配属された。大学でNEAC2101という紙テープベースの「計算機」しか触ったことのない私であったが何の知識もないままソフトウェア開発部門に入れられ、以来40年間ソフトウェア開発の仕事に携わってきた。当時のコンピュータはリレーからLSIになり、メモリ容量が初めて1MB（メガバイト）になった。メモリ容量は動作するソフトウェアの大きさ（機能）を決めるから、より高機能のソフトウェアを動作させることが可能になった。現在のスマートフォン

のひらサイズになり、誰もが1台以上のコンピュータを持つようになる」と言っていたところ「なかなか夢があつていいね」と言われたことを今でも覚えてい

る。その夢の未来が、今私の目の前に広がっているのだ。それもわずか20年前のことである。技術の進歩の速さには今更ながら驚かされる。一方でこの技術の進歩は社会のありようをガラリと変えてしまった。蒸気機関の発明が第一次産業革命であるならば情報処理技術は第二次産業革命と言っても良いと思う。第一次産業革命の資産をヒト、モノ、

カネであるとするならば第二次産業革命ではそこに情報

が加わった。手のひらにある端末（スマートフォン）は世界中の人とつながることを可能にし、世界中の

情報にアクセスすること

を可能にした。コンピュータを中心にした情報処理技術は社会の利便性を格段に向上させた。一方で多くの負の効果も生み出している。デジタル化された資産は守れるのか？個人情報

の公開によってプライバシーはどこまで守られるか？心配のタネは尽きることはない。しかし技術を使うのはあくまでも人間であつて、その制御はある程度我々に可能であるという点で希望は残されている。最近、人工知能という言葉が流行し

ている。私の現役時代にも

カネであるとするならば第二次産業革命ではそこに情報

が加わった。手のひらにある端末（スマートフォン）は世界中の人とつながることを可能にし、世界中の

伊勢神宮の社格と由緒

昭和41年建立の小石川大神宮

ちよつと気になる建物があつた。春日町の交差点から富坂をゆっくりと上る。母校のすこし手前から右奥になにやら神社の屋根らしきものが望まれる。信号のある小さな交差点にはなんと数本の「幟」が立つ。こ

こはまさしく「神社」である。都心の神社らしく大きなビルに組み込まれたよう

な形態で「小石川大神宮」が鎮座する。見事な蓋つきの提灯に守られた鳥居がビルの中から顔を出している。大きさはともかくなかなか立派な鳥居である。それもそのはずこの鳥居は第62回の伊勢神宮式年遷宮で撤下された月讀宮（つきよ

みのみや）の古材という。社殿が建立されたのは66年で、私達の多くのメンバーが在学中にできた52年の歴史をもつ「新しい神社」である。伊勢神宮の分神たる社格と由緒をもち、神宮から皇大神の別大御神たる特別御璽を奉戴し、神宮側からは「遙宮（とうのみや）」

を招く表現であるけれどご

容赦）囲碁や将棋の試合でコンピュータが次々と人間を負かしたことによつて

様々な分野への応用が考えられていた。その代表例が自動運転システムである。行き先を告げるだけで自動

車は人間の力を借りることなく自動運転で目的地まで連れていつてくれる。あゝ楽チン。開発競争に参加しているのはトヨタなどの自動車会社だけでなくApple、Google、AmazonなどのIT関連企業が名を連ねている。数十個のセンサを搭載した自動車が時速数十キロでブンブンと走る様を想像してみよう。しかし道路

上では予測不能なことが次々に起こる。老人の横断、酔っ払い、子供の飛び出し。こ

のような事象にどうやって

対応するのか？安全をどのように担保するのか？事故の責任は誰がとるか？考えれば考えるほど悩みは尽き

ない。

人工知能技術はスマートフォン以上の大きな質的イ

ンパクトを人間社会に与える。それは技術を使う人間と使われる技術（機械）と

言う関係が全く対等になる新たな概念が必要になるのかもしれない。

SF作家アイザック・アシモフが示したロボット三原則。

(1) 人間への安全性

(2) 命令への服従

(3) 自己防衛

私たちを待ち受けるのは果たしてどのような未来なのだろうか？AKARUMIRAIであることを願つてやまない。



今までの社殿

「白門物理の集い」に参加を！

第4期 佐々木 文三

平成26年「葉山寮」から移って5回目を迎えた第19回「白門物理の集い」が6月2日から3日にかけて新緑眩いここ奥多摩の『山荘鉢の木』で開催されました。

交通の便に難があるとの意見が多いものの、駅に近く景観が良いこと、宿のご厚意により「貸し切りになること、安価なこと、お酒



黒沢先生を囲んで

が好きなだけ持ち込めること」「など良い面が多々あり今年もこの場所から離れがたく徐々に定着しつつあります。今回は、奥多摩に移ってから初めて『黒沢先生』に参加を頂き、全部で13名の方々が集まってくれました。

13時過ぎ、一升瓶3本を背負って家（東村山市）を出ました。奥多摩駅まで約110分、途中拝島駅・青梅駅で合わせて40分程の待ち合わせです。やはり不便！と実感！青梅駅で待合室にいと「脇田先生」「杉本先生」が2本あとの電車で到着、一緒に一路奥多摩駅へ！15時03分駅に着きました。宿に行くと既に黒沢先生をはじめとする何人かの人が歓談をされていました。

黒沢先生は今年2月で89才とのことでしたがまだまだ元気、「歩き方について」の講義をされており「膝が痛い」「腰が痛い」という若いモノ（？）には大いに参考になりました。

16時から講演会です。今回の講演は杉本新会長による「物理よもやま話」（Pd・パラジウム）です。超電導、触媒、水素イオンなどに触れPdの特性を説明、希少金属として「金」よりは安価であるが「白金」などに引けを取らない高価なものであることもわかりました。

18時から懇親会、「持参した日本酒」と「ビール」を飲みながら「健康の話」「お酒の話・飲み方の話」など黒沢先生を囲んで和気あいあいと懇談が進みます。21時過ぎ杉本会長に駅まで送られ「黒沢先生」は泊まらずにお帰りになりました。その後も、大部屋に移り夜が更けるまで話が続きしました。

翌朝は自由解散、朝食を終えると「山に登る人」「散策をしてから帰る人」「家路をたどる人」等々に分かれ出発です。快晴の「青空」のもとそれぞれの予定に向

総会が開催される

第8期 斉藤 守夫

毎年、晩秋に開催される白門物理会総会も20回目を数え、今回も27名の出席を得て2017年11月に後楽園キャンパスで行われました。今回は通常の事業報告と事業計画説明のほかに役員改選が行われました。役員は規約により2年ごとに改選されます(留任もあり)が、今回は会長が交代する内容で、新役員は後述のと

おりとなりました。今まで会長の労をとられていた鶴田氏が欠席されており、お話しをお聞きすることができなかつたのが残念でした。

総会後に物理学科の坪井教授による「X線天文と大都会の小さな望遠鏡」と題しての講演がありました。その後の懇親会では29名の会員のほかに坪井研究室で学んでいる現役の皆様方も加わって歓談の輪ができました。

ひとり言……

薬は怖い

第5期 宮内良子

一昨年の中指の調子が悪く（ばね指とのこと）鉛筆を握るのがきつかったのです。昨年になって試しに注射を打ったら良くなってほっとしました。が、喜ぶのも束の間、今度はその指も含めて親指、人差し指の3本が痺れてしまいました。原因は？です。でも、この？は飲んでる薬の副作用ではないかと思っています。と言うのも5年前に体調を崩し、その後飲み始めた薬の副作用ではないかと疑っていた事があったからで

す。それは、膝の痛みでした。痛みがあり病院に行つて診察を受けた結果、膝関節症で手術を勧められたのです。人工骨への置換です。20年は持ちますし、若いうちに手術をすればリハビリも楽で、手術後は痛みは無くなりますよ、ただし、デメリットもあります。それは正座ができなくなるし、スキーも無理です」とのこと。私は膝の痛みが出る前は少しは正座ができました。それに少しはスキーをしますので、それでは困ります。で、今まで様子見にして過

まりにも薬の副作用ではないかと思われることが多くなつて昨年半ばにその薬を止め別の薬に替えました。それから、4か月経つ頃より膝の痛みが嘘のように無くなりました。やはり薬の副作用の可能性が大きかったようです。一時は右足に座骨神経痛も発症して歩けなくなるとは、今ではまったく自覚症状はなくなりました。膝の痛みは薬を飲み始めてから半年が経つてから発症しました。思えばその痛みのである前から別のところにも整形外科的な痛みなどはあったのです。今は薬を飲まなくなったわけではありませんで、今回の手の痺

れも薬の副作用ではないかと様子見にしています。それにしても、もちろんこれ程ひどい副作用ではありませんが、整形外科的ではない副作用と思しき事も起きています。体質は人さまざまで、副作用の多少もあるでしょう。個人的には一つの病の治療のためにCOI（生活の質）を落としてまで、薬を飲まなくてもいいのではと思います。でも、薬を必要とするのであれば生活の質のどこまでが許せるかを判断しお医者様と相談して薬のお世話になるべきではないでしょうか。それにしても、薬は怖いと一人つぶやきました。



会長	杉本秀彦	4期
副会長	佐々木文三	4期
（会計担当）		
宮内良子	5期	
脇田順一	27期	
照井雄一朗	40期	
倉繁正和	41期	
菅原泰晴	8期	
会計監事		

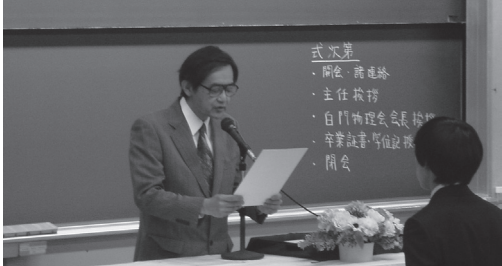
白門物理会は規約に基づき活動しており、規約はホームページにも載せております。規約は今までに3回改訂されていますが、ホームページをご覧になる機会が少ない方もおられるかと思うので、ここに現行の規約を掲載します。

白門物理会規約

- 第1章 総則
- (名称)
- 第1条 この組織は、「白門物理会」（以下「本会」という。）と称する。
- (目的)
- 第2条 本会は、会員相互の親睦・交流を通し、中央大学並びに会員の発展及び興隆に寄与する。
- (所在)
- 第3条 本会の本部は、中央大学理工学部物理学科内に置く。
- 第2章 事業
- (内容)
- 第4条 本会は、次の事業を行う。
①会報の発行。
②その他、第2条の目的を達成する為の必要な事業。
- 第5条 本会の事業年度は、毎年10月1日より翌年9月30日までとする。
- 第3章 会員
- (組織)
- 第6条 本会の会員は、中央大学理工学部物理学科を卒業又は在籍した人、及び教職員並びに本会の趣旨に賛同する人で組織される。
- (入会)
- 第7条 本会に入会しようとする人は、所定用紙に必要事項を記入し、署名捺印の上、年会費を添えて会長に提出する。
- 第4章 役員
- (役員と数)

- 第8条 本会に次の役員を置く。
①会長 1名
②副会長 4名
③幹事 各期から若干名
④会計監事 2名
- (選出)
- 第9条 本会は、次のようにして役員を選出する。
①幹事及び会計監事は、総会において選出する。
②会長、副会長は幹事の中から互選により選出し、総会の承認を得る。
- (職務)
- 第10条 役員の職務は次のとおりとする。
①会長は、本会を代表し、会務を統括する。
②副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。なお、副会長の1名は会計を兼務する。
③幹事は、他の役員を補佐し、本会を運営する。
④会計は、会費の徴収、保管及び支払いに係わる処理を行う。
⑤会計監事は、本会の会計を監査する。
- (任期)
- 第11条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第5章 集会
- (幹事会)
- 第12条 幹事会は、本会の運営に関する必要な事項を審議、決定する。
①幹事会は、会長が招集し、会長が議長となる。
②幹事会は、出席者の過半数によって議決する。
- (総会)
- 第13条 総会は、本会の最高議決機関である。
①本会は毎年1回定期総会を開催する。
②幹事会が必要と認めたとき、又は会員の3分の1以上の書面による請求があったときは、臨時総会を開催しなければならない。

- ③総会は会長が招集し、議長は役員の中から選出する。
④総会の議事は、出席者の過半数をもって決する。
⑤総会は次の事項について審議、決定する。
・事業計画及び予算に関する事項。
・事業報告及び決算に関する事項。
・役員の選出及び承認に関する事項。
・規約の改正。
・その他、本会の運営に関する重要な事項。
- 第6章 会計
- (会費)
- 第14条 ①年会費は3千円とする。
②3万円を一括納入することにより「終身会員」とする。
「終身会員」は年会費を免除する。
③長期にわたり年会費を納入した者、その他これに準ずる者は、幹事会の承認を得て「終身会員」とする。
- (運営費)
- 第15条 本会の運営に関する費用は、会費、寄付金及び他の収入をもって充てる。
- (会計年度)
- 第16条 本会の会計年度は、毎年10月1日より翌年9月30日までとする。
- 第7章 付則
- (退会)
- 第17条 本会を退会しようとする人は、所定用紙に必要事項を記入し、署名捺印の上、会長に提出する。
- (除名)
- 第18条 本会の会員として適当でない人は、幹事会の議決により除名できる。
- (実施)
- 第19条 本規約は平成10年11月28日より実施する。



卒業証書を手渡す田口先生

平成29年度中央大学理工学部卒業式と大学院理工学研究科修士学位授与式が、平成30年3月24日（土）に後樂園キャンパスで開催されました。13時から行われたアリーナでの式典には、理工学部卒業生と理工学研究科修士生あわせて約1200名の学生が出席しました。その後、各学科にわかれて卒業証書及び学位記授与が行われました。

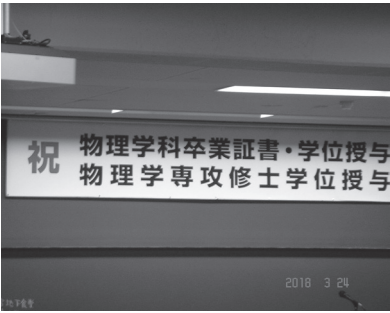
物理学科は5号館5234教室に部屋を移し、学科主任の田口先生から卒業生と理工学研究科修士生へ祝辞と饗のことばが贈られました。最初に、皆さんが卒業までの4年間、もしくは修士課程修了までの6年間にやったことが中央大学の社会的な評価につながっている、というお話がありました。日本の大学が世界の大学と横並びに評価されるとき、日本語で出した業績が評価につながらない日本の大学は不利になりがちで、さらに文系学部の定員が多い大学は、単純

平成29年度理工学部物理学科卒業式

に研究業績を大学の規模で均した量で評価すると不利になってしまう状況がある、ということでした。しかし、最近では理工系に限定して、研究業績を研究に携わった人の数で均した量で評価するという方法があり、その方法によると中央大学は世界の大学の中でも立派な位置にあることが紹介されました。これは卒業論文研究や修士論文研究での研究活動が論文を通して中央大学の評価を上げることに繋がっているからであり、卒業生とこれから大学院に進学する人にとって心強いメッセージになりました。そして、このことは会社に入ってからと同じであり、卒業論文研究や修士論文研究の努力で中央大学の評価が変わったように、皆さんがこれから会社の一員として会社の中でやることが会社の評価を変えていく、というお話がありました。シャープという大きな会社が台湾の会社を買収されたように一日一夜で会社が変わってしまうということが起こりえる時代にあること、これまでのように同じ会社に基づいているというのが当然ではなくなっている時代にあることを考えると、これからは会社の待遇に甘んじることなく会社に対して何が貢献できるかということを常に考えなくてはならない時代になってきているといえるだろう、しかし、一方でこれは

会社の要求通りに自分を高めていくという受け身で夢がない人生のように思われるかもしれない、といった所感が述べられました。田口先生が最近読まれた本の中から「僕たちの20年戦略」という本について紹介がありました。著者はティラー・ピアソンという若手の起業家で、自らの体験談を書いたこの本の内容は、これから会社の中で自分がどのように貢献できるかを考えながら生き抜いていく生き方に対するもう一つの生き方の提案のようにも感じられたとのことでした。最後に田口先生より今日この時に考えてほしいこととして、卒業までの4年間、もしくは修士課程修了までの6年間に学んだことをこれから先の長い人生に何らかの形で生かしていくことを考えてほしい、そして、日々自分を高める努力をしてほしい、というメッセージが贈られました。そして、もし皆さんを助けられることがあればいつでも中央大学に戻ってきて扉をたたいてほしい、今日は本当におめでとうございます、という温かい言葉で締めくくられました。

続いて、物理学科同窓会を代表して「白門物理会」の杉本秀彦会長から卒業生と理工学研究科修士生へ祝辞と饗のことばが贈られました。杉本先生からは、自分で自分の道を切り開くことの大切さとそのためには勉強しなければならないこと、勉強で得た情報を自分の頭で解釈し考える努力をすること、その際に視野を



広くもつことが非常に大切である、というお話がありました。一時期、会社の常識は社会（世間）の常識ではないといわれた時代があったこと、組織の常識だけにとらわれた結果、社会との間に乖離が生まれて非常に不都合なことが起こったことなどが紹介されました。幸いにも皆さんは物理学科を卒業すると様々な分野に進まれることになるから、卒業してからも同級生の間で連絡をとりあって、お互い異なる分野に進んだ友人の考えや知識を得る機会をもたれるとよいでしょう、そして、さらに年齢の違う層の人と話をする機会をもてれば、視野を広げるという意味において大変有効でしょう、というお話がありました。そういった機会を提供する場として、物理学科同窓会「白門物理会」があることが紹介されました。

学科主任の田口先生から物理学科同窓会会長の杉本先生へとお話が続いた後、多くのご家族が見守る中、田口先生より卒業生及び理工学研究科修士生へ卒業証書と学位記が授与され、授与式は滞りなく終了しました。

会費納入について（お願い）

「白門物理会」も活動の輪を拡げつつあります。これも、ひとえに会員皆様のご協力の賜と厚くお礼申し上げます。これからも「白門物理会」を継続、発展させるためには皆様から納入して頂く会費に頼らざるを得ません。以下のいずれかの方法で、会費納入をよろしくお願いします。

①直接納入
「総会」「白門物理の集い」等に出席の際、会計担当が承ります。

②郵便局からの振込み
払込取扱票（手数料は白門物理会で負担）をお送りしますのでご利用ください。

③銀行からの振込み
三菱UFJ銀行 久米川支店（店番 231）
口座番号：0691988（普通預金）
名 前：白門物理会

なお、会費については「規約」に次のように規定されています。

第14条 ①年会費は3千円とする。
②3万円を一括納入することにより「終身会員」とする。
「終身会員」は年会費は免除する。
③長期にわたり年会費を納入した者、その他これに準ずる者は、幹事会の承諾を得て「終身会員」とする。

編 集 後 記

10月13日（土）東京の立川市にある国立昭和記念公園で箱根駅伝の予選会が行われましたので応援に出かけました。予選は各校上位10名の合計タイムで争い、今年は39校中11校が正月の本大会に出場できます。陸上自衛隊の駐屯地をスタートして、立川市内から公園内へと約21kmを走るのので、まず自衛隊の正門で声援を送りゴール地点に向かったのですが、着いたときにはすでに続々と選手がゴールをしていました。そのときテレビの実況では中大10位と言っていたようですが、これは各校の10人目の選手がゴールした順位の様子でした。最終結果は1位から順番にコールされるのですが8位で中央大学がアナウンスされ、周囲の方も安堵したようでした。最後に

あった応援団のエールも一際勢いのあるものに見えました。

本会の会長が10年以上務められた鶴田氏から杉本氏となりましたので、この会報の発行人も杉本氏に変わりました。今後とも宜しくお願い致します。

【編集委員】
編集委員長 8期 齊藤 守夫
委員 会長 杉本 秀彦
1期 篠田 彬 4期 佐々木文三
5期 宮内 良子 7期 鈴木 立夫
7期 中村 裕介 8期 倉繁 正和
13期 飯島 章男 18期 吉川 秀雄
27期 脇田 順一 40期 照井雄一朗
41期 菅原 泰晴
編 集 顧 問 清水 正（法学部卒）

会 計 報 告

平成29年度会計報告案

期間：平成29年10月1日～平成30年9月30日

		(予算)	(決算)
収入の部		2,095,046	2,155,417
会費	終身会員会費（1名）	0	30,000
	通常会員会費（8名）	30,000	24,000
雑収入	寄付、利息等	0	36,371
繰越金		2,065,046	2,065,046
支出の部		325,000	248,759
総会費	謝礼等	60,000	50,000
機関誌代	印刷費	100,000	97,200
通信費	案内状送料等	100,000	76,572
企画補助	H P、講師謝礼等	50,000	18,447
備品費	ゴム印等	5,000	0
消耗品費	事務用品等	5,000	5,110
事務経費	M B S 手数料他	5,000	1,430
残高の部		1,770,046	1,906,658

会 費：（終身会員）高本亘さん
（通常会員）西澤国雄（2期）磯矢海里さん（1期）
須賀博志さん（14期）阿部寛さん（19期）
盛本一成さん（5期）折原哲朗さん（1期）
安田明彦さん（13期）福田好朗さん（6期）
雑 収 入：幹事会・懇親会等からの寄付、利子、利息
総 会 費：謝礼 中央大学理工学部 坪井陽子教授
機関紙代：500部 音羽印刷

通 信 費：総会案内、機関紙送付、
白門物理の集い案内
企画補助：物理の集い講師謝礼、
H P、取材費
備 品 費、消 耗 品 費：
プリンターインク代
事務経費：振込手数料など
会計 佐々木文三（第4期）印

平成29年度会計監査報告

①監査執行日 平成30年 10月 5日
②監査項目及びその状況 帳簿、証ひょう類、現金、預貯金とも正確である。
③その他事項はありません。

会計監事 倉繁正和（第8期） 印
会計監事 菅原泰晴（第41期） 印

2018年度予算案

期間：2018年10月1日～2019年9月30日

		(予算)
収入の部		1,936,658
会費	終身会員会費	0
	通常会員会費	10名 30,000
雑収入	寄付、利息等	0
繰越金		1,906,658
支出の部		325,000
総会費	謝礼等	60,000
機関誌代	印刷費等	100,000
通信費	案内状送料等	100,000
企画補助	H P、講師謝礼等	50,000
備品費	ゴム印等	5,000
消耗品費	事務用品等	5,000
事務経費	振込手数料等	5,000
残高の部		1,611,658

会計 佐々木文三（第4期）印